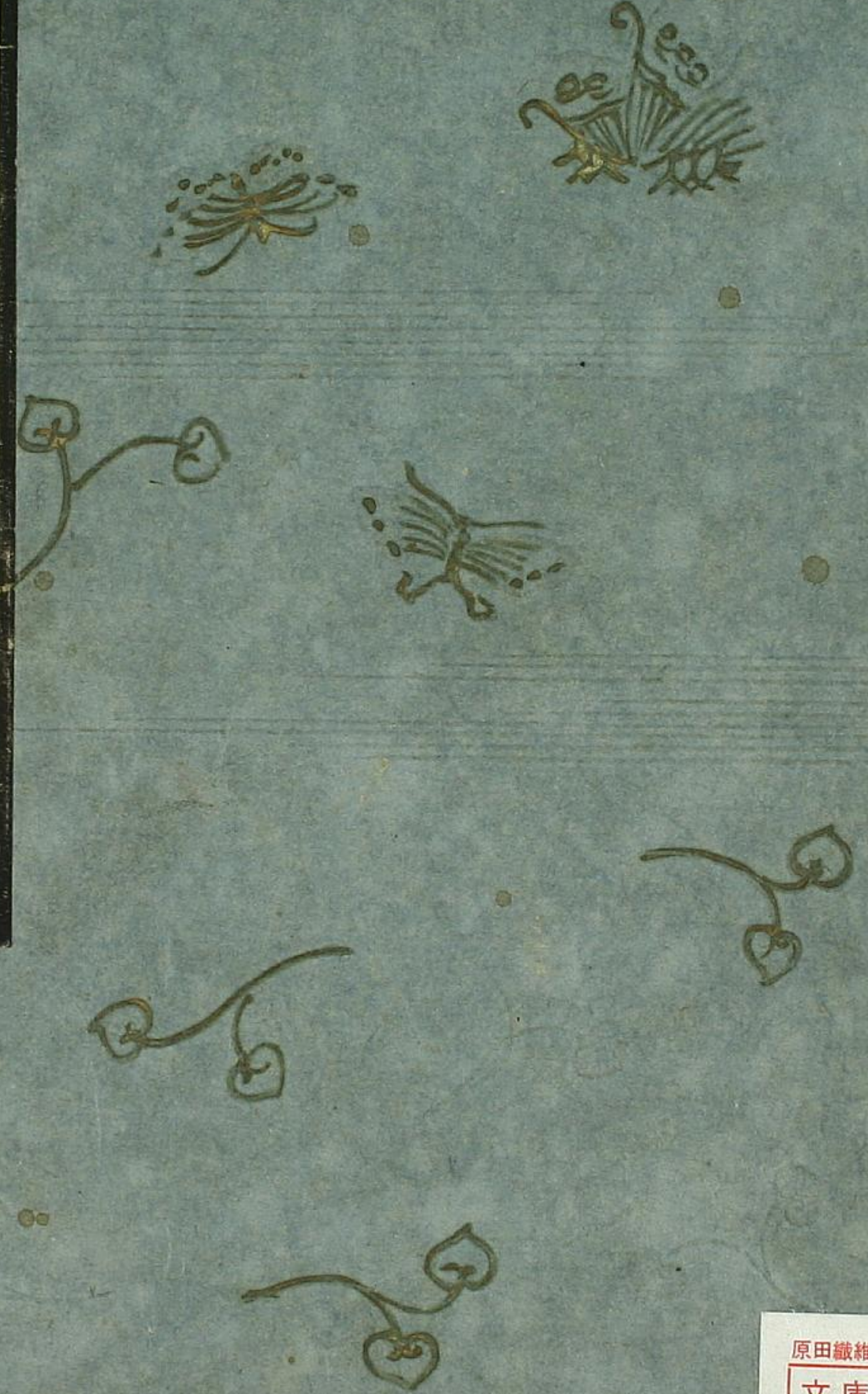




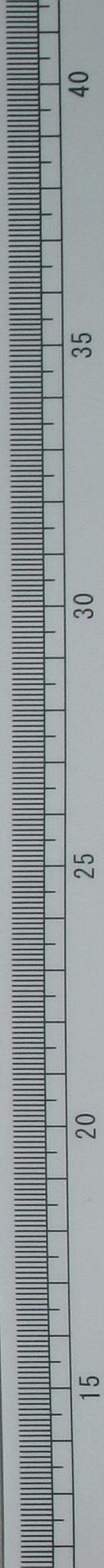
扶桑國
第一産

養蠶ま蠶ん秘録ひ

下



原田織維文庫
文庫4
659
3





養蠶秘録下卷

目録

真綿仕立指の半

練綿練ふまじりぐる半

秋桐子が毒の半

小浜村の老女雲氣成見る半

蚕種中場の半 附 焼飯と金百取小賣の半

害蚕詩二首 日解

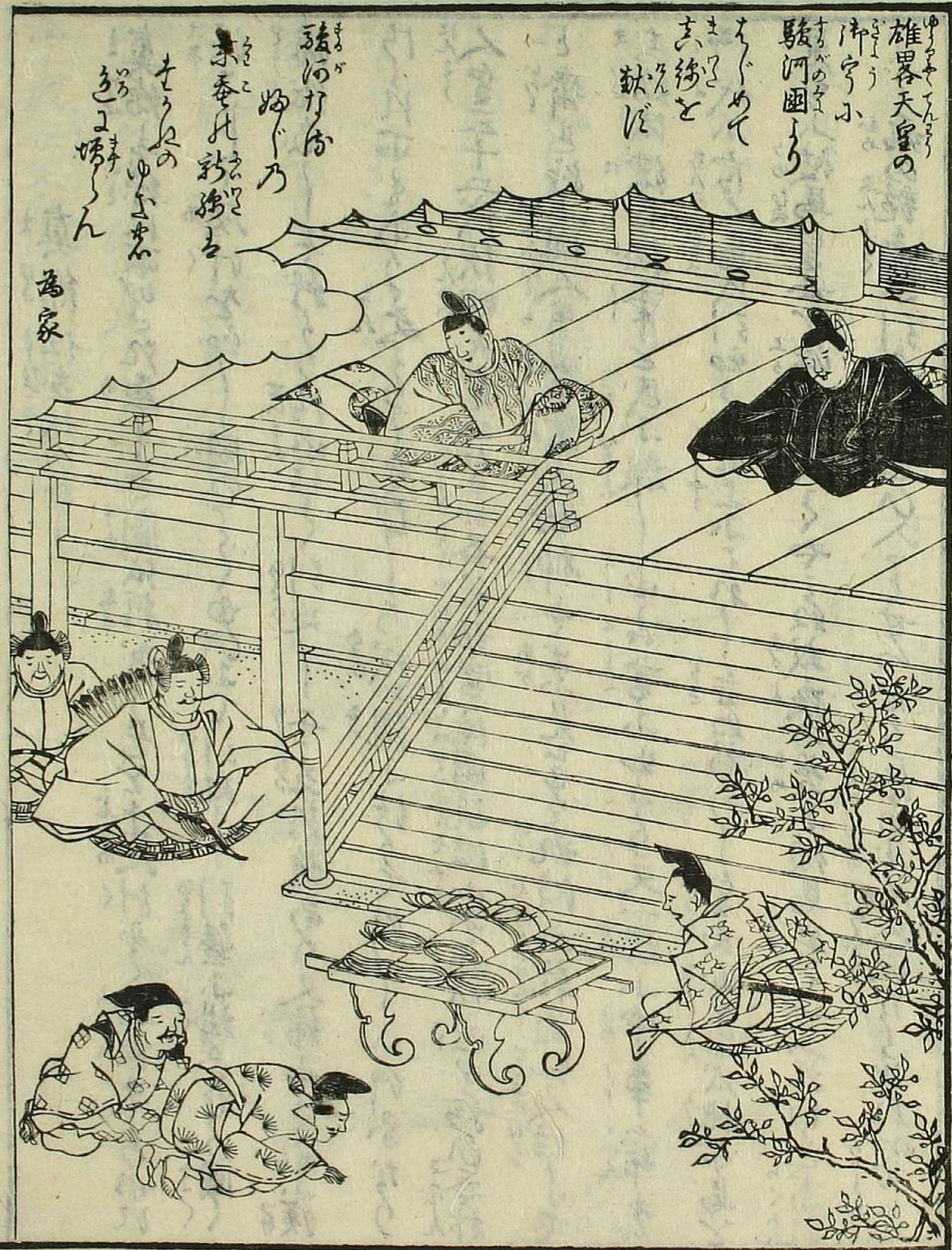
齊宿瘤の半

董永の半

蔡順の半

昭和三年十月二十九日
第一商学部より抄管





雄略天皇の
 御宇小
 駿河國より
 糸を
 織りて
 衣を
 作らば
 秋は
 涼し
 夏は
 涼し
 冬は
 涼し
 春は
 涼し
 糸を
 織りて
 衣を
 作らば
 秋は
 涼し
 夏は
 涼し
 冬は
 涼し
 春は
 涼し

為家

涿縣小素の名木出本一幸
 衣服好りの幸
 日本本綿の始王乃幸
 漢張湛蚕業と勤ひる幸
 蚕詩三首 日解
 蚕の徳少く穉者より一幸

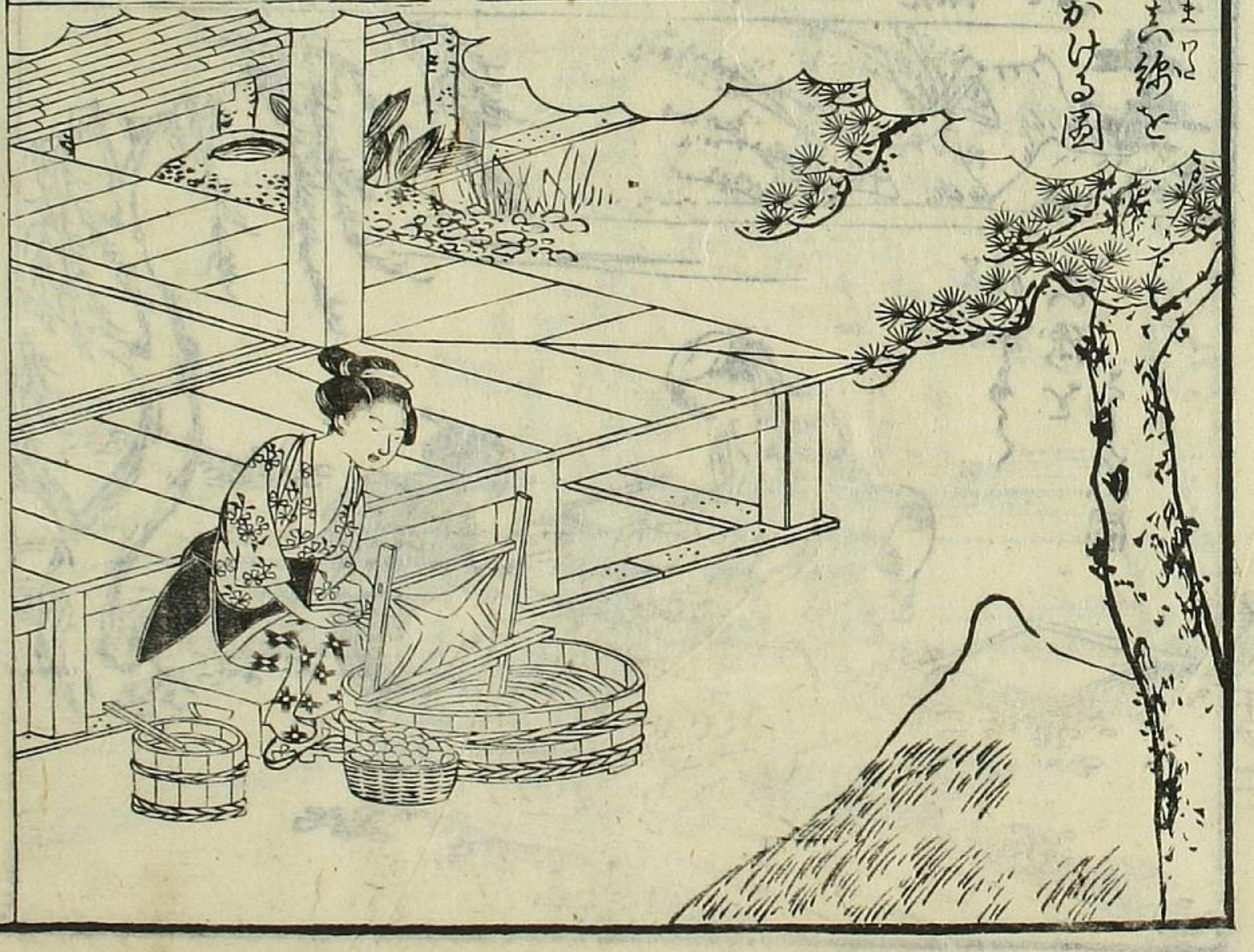
養下目

真綿仕立柁の半

真綿仕立柁に取がた魚しき蘭城控おし是と上灰汁をく徳者まら水に
 漬さして灰汁をわし蘭のてくゆびおて引延し引延し引延し掛かたり園
 流儀多しそ終り清水はく引延し干立新あり又綿あく水小漢
 けは亦もありまらりてむしる或い繩小けりてほしり家なり
 人皇二十代欽明天皇の皇女各若姫常陸國筑波山小死び去り終ひ春祚
 と齋は終し個人若養齋大光明神也崇光なる筑波山乾道仙人住して
 志給成練る祕事と民小教し由古書小ゆり又一説小中華禰老
 沖代小官人馬成引物く座と小をり垂ぬけり皇女玉簾成桃馬と
 見り小彼馬皇女と深く思入くやぬ或夜の愛小彼馬告てり柁口は書れ
 ながし姫の艶色小引りぬく思入てせらなり柁れども人間ならざれば力及

養下ノ書

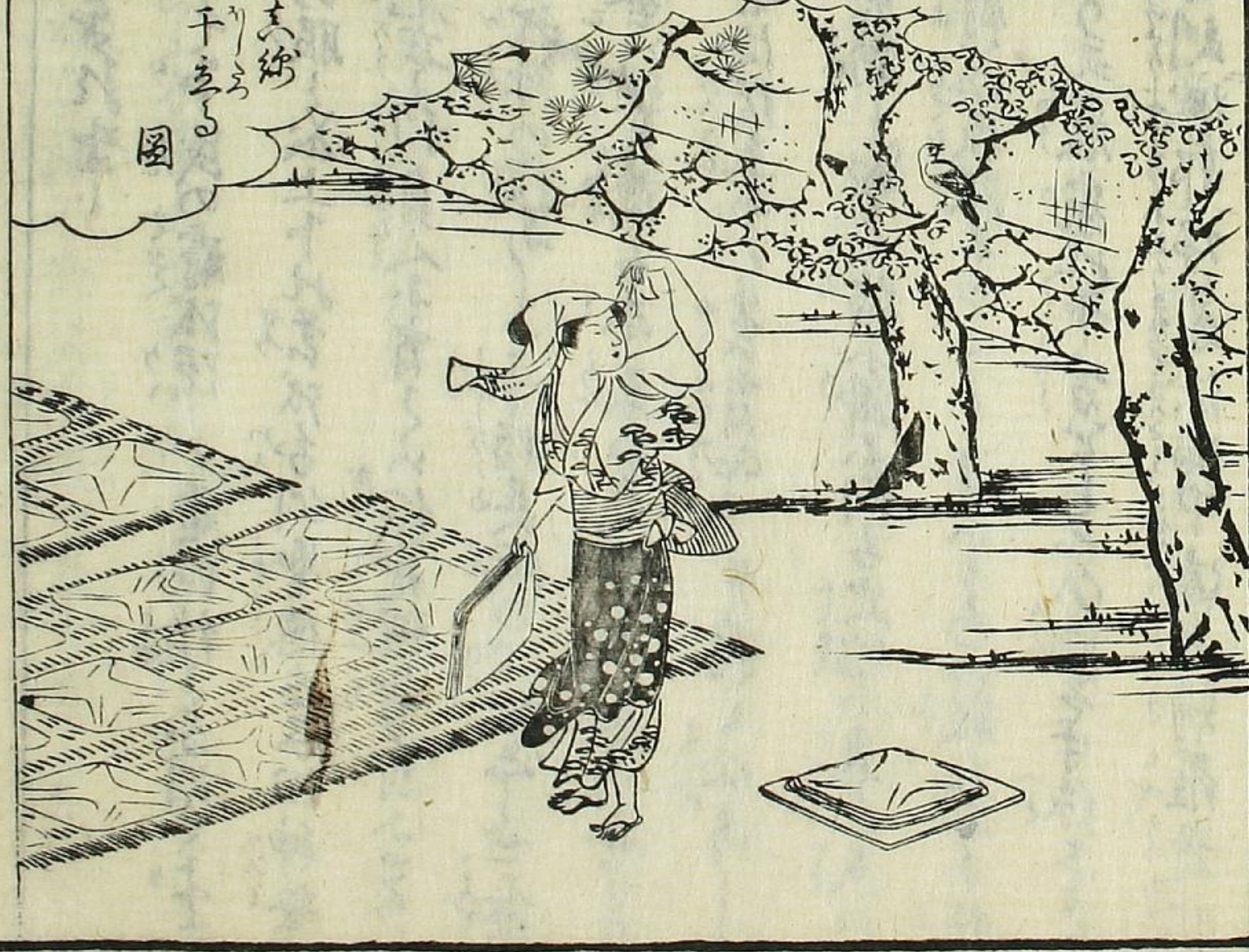
け死して一方は蚕也生し
 志給小むれく皇女の清身小
 流小登しと若く愛是也
 聖日彼馬果して死を成小野
 外小埋し其地小虫多く生
 一あり此素の糸と合ひす也
 仍る是と志給小ひるを以て古
 書小入るり又を終りし小
 馬成何し人あり女子を人持り
 或時父意く行て久しく家小
 ゆり女父の帰を待流て馬に



何ハ戯小云汝父依違之業せよ
 汝と夫婦小成べしと云小彼馬
 即駈出父を乗御る娘おぼろ
 けりと父小かゝる父怒く馬を
 教く其皮成割ごと本の枝小掛
 垂し小娘其本の下と通し耐
 彼は忽娘とほし小彼小化し
 蚕と成るるせよ
 按ずる小是思ひ言説ふし信
 用者ししと云小蚕の粒粒教
 あはれ一方此蚕小くも有るに



名然生皮を其俣垂附と出わ
 くと馬の皮小浴之り小彼小化
 蚕ハ伏犧氏より始りて黃帝
 の代より廣くかゝる小彼書小
 見へり考ふに
 三才國會云蚕此神と天駟と名
 けく天駟と依星の因たる也小
 蚕神ともいふ也又天駟と
 馬と同一物星とも云又一説小蚕
 と龍の精なり馬中氣と曰ふ
 と板小午の日と用也と云



練綿練ふまじのまじ事

旧事本記曰麻を布せぬく下民の膚は隠し蚕は絹とふゆくと
公卿諸侯の御肌と脩り朝夜の服と衣上下は皆然る以聖徳を子日神蚕
厚皮の賦記と天小あるを元亨利貞人小育る仁義禮智身小たり
てい地水火風佛小於くい常樂我淨の理ありて生住異滅の理と忘るせ二母
成表は名忠少く程と過去蚕は現在繭と未未より過去此蚕を蚕る
現在を必懸く過去の終と蚕は現在をく養育すく繭を必あり
まじ小はく報國の果は成る蚕繭く繭く繭小掛小対火熾小焦是糸に
なる熱湯小煮らる九緒立す存衣衣服をいとく是小まの教九三子存
ありて虫の教も亦三子存なり又農家此辛勞ととこの緒を子練を尺
とを練る小ゆりたのひ昨日到城郭一帰来涙滿巾遍身綺羅者引

卷下ノ三

是養蠶人古人の謂くもさるありぬく又書蚕を教生れ業と

公得ぬ人も有ぬく一物とともさるは慰ふまらふとありぬ衣食の道

と安民身一の業を一日をぬんむぬく故小天の神乃教を垂させ

好小大業なりも歎農魚糸本まも天地神明の恵ふよりて生れ小所の

恩頼なれも飯小を練ふまらぬのふ理ととるは唯利欲小のを脱りて

人と恵むの公ぬんむ天の神は清く小道の災害目前小到ぬく一能く信と

心垂ふく一業は清くとあり新らばととも神や守るんとの清浄豈はあり

明んや公ぬんむ人とは理と辨へ獨小妖僧は言成信とと感ふくふれ

秋桐子が妻の半

毛ぬあり秋桐子が妻潔婦やうふる嫁して五日め小吏官小はくく他去へ
りたり又年とく秋桐子古くへゆり為小五月の頃道の邊小女一兒女素

秋桐子夫妻
素と採る園



採る居りしと見く予
 公はよひ女小戯まつり我を娘の
 若らるがゆえに素と遠く侍れり
 素の本陰小休らひ度一樹の海
 の音も返初ならぬ程をいり
 思ひみややせひはれども女見
 向れもやらば素成取く居り
 今秋桐子いそせれぬ風信
 かく四身めく勤めよまの
 かな身を助んぬめなげや
 身とまんとさひはれり我小陰ひ

採り我を官小陰く侍候身小陰里金銀多く財今古郷へ海りゆふ
 我小陰く公小陰くも成のり何蚕素採れいもたり安ら船んとは女
 言へりし我我との妻やありし身は程と素さういふかみ定ぬ家業
 庭をかく金銀と得ん申道なげ其も我まも官小陰くえて他玉小陰くま
 朝さる此形ひよとまや半はく勤先給ひり我今程と老く侍ま
 素成つと蚕をまひ姑小陰くまのを根なるむなくまの居とゆんとま程なほま
 中濃よくいひと彩らなれを秋桐子もせんさあく立別は我家へ海りぬ
 細野へ海りし金銀成母の素小陰く妻中と悦せんや尋ねるふやぐ
 外より海り来ぬ能く見よ道の色りほく素成採居る女なり秋桐子
 ちと赤面し惜く物とと云ざりしが妻秋桐子小陰く四身我を逢
 好ひくみ日め小陰くざらぬてみ兼が同親の喜ひを願ひ官小陰くく

野へる今成道の道に女小あへんや一歩い何事ぞや色あけり
親戚わまる不孝不義の人なりゆふ法とる人といふは又年若
美若成一の元義と守一を宿く侍る我あいの道と極一
や彼小家と知り其後海を倒小舟と志つ先をくくぬ秋の終り
悔歎くともどもかひ形一歩小の形あた女とありるよき中人皆
涙を流し感へる海を

小津村の老女雲氣成見する事

寛文年中の頃但馬國城崎郡小津村やう新八十有餘の老女ありけり
雲氣となく風を考ふる小頗妙とけりよとて近郷の百姓或は漁作船
乗り日夜よく晴る成向ふよとて遠く幸か一近郷の人彼と噂
奇母と号ける又其近色番業の家より固く番の若女と号ふ奇母

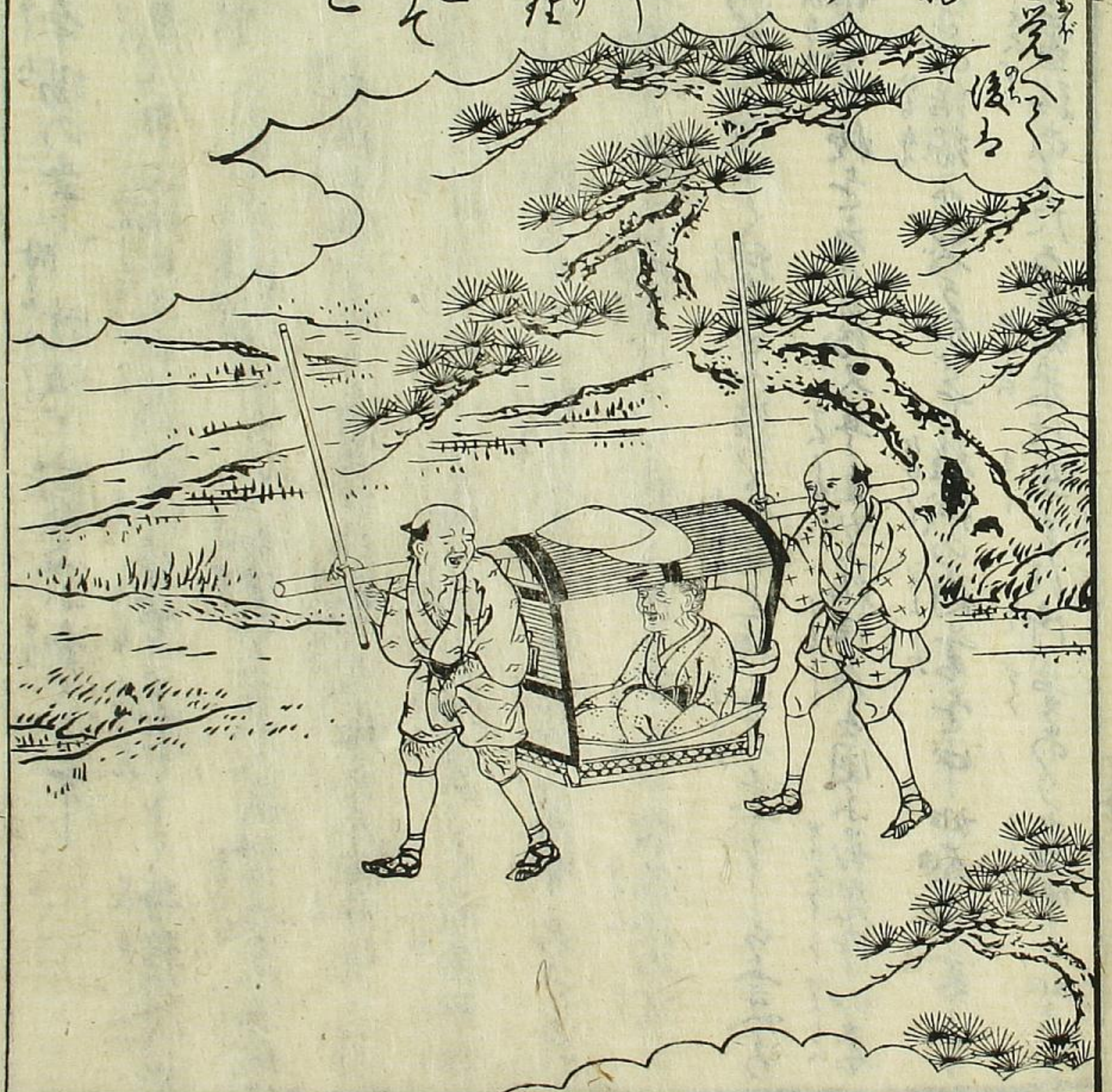
のいふ今年六月初と天氣後夏たり夏とる考まはる子に番と判あり
是れ番の判有命と果して其言小若成或は大坂堂崎の老婦湯泉
に入湯一は奇母の事成陣陣や中華宗とて國小不飛とれ茶と傳へ
と法小津と業とす老あり不飛子と老 異人は東方と百金小買くを賊人と水我
一賊の大軍成破り一倒あり我は老婦と法は毎日々天とんせせと茶
相場とせは大利を得ん半目茶と獨嘆して彼村小若成老婦成抱へ子や我りそ
大坂(連海)別名小並海と秘して人小若成は日々老と噂と向く相場と志る
小あける友老婦の言をもあは案よ遠く大坂小推し老婦と妻く其
方日和とる事妙とけりやとて教の金成費一連海り言と並小何と
あく莫老の推とせやや少の老婦のて金不足の有て虚言成中い
たあれども是國小但馬國津長山の海邊小道とる山なり一まあねく小

心がけんきどもさく
 見へかてくゆるかり
 と昔はねをせんうこ
 形くてやまらふし
 按ぢるふ事と
 馴くく事の理あり
 は老女教年の間
 朝夕は居山の影
 雲のかゝると見馴て
 天性自然小兒くゆるん
 書香の業もくゆるおあど



美良下ノ六

一通定りたる法を覚へて
 日衆我家の陽氣
 とおぼやうてたまふ
 かり陽氣の家
 ありて異なふ
 あれを考つる小一程
 ありうるは途
 まるる事なりけり



蚕種本場の幸 附焼飯と金百両小賣する幸

元文中の頃、東北國の信原上田の蚕種販求て上ふと、帝君の近國
と江尾、檮州、加古川より出する、美蘭種をとりて、蚕業となん、又其比下、総國、結城
辺より、蚕種多く出、奥、其、餘の國にも、賣出、或、時、結城、大洪水、は、川
下の幅狭き所、あ、上、なる、山、崩、は、落、川、上、二、里、餘、の、間、一、面、海、は、お、く、民、益、回、畑
大、に、不、換、に、死、する、者、夥、し、因、茲、其、所、の、種、者、人、を、幸、蚕、種、販、求、は、幸、あ、こ、ら、ん
及、奥、尾、俣、達、那、俣、達、村、に、於、て、右、大、夏、比、幸、と、經、て、は、幸、小、亭、主、の、い、高、池、の、桑、を
結、城、邊、より、も、勝、は、ひ、ゆ、を、商、所、を、種、販、の、路、を、天、晴、上、種、出、本、主、と、い、ふ、ま、う
居、村、近、郷、の、菌、坂、標、求、く、種、を、多、り、爲、又、亭、主、の、信、原、之、國、小、若、光、寺、如、來
佛、く、ける、在、國、人、多、く、結、縁、な、あ、つ、ふ、と、種、紙、の、内、書、を、中、如、來、と、書、し
堂、名、幸、の、當、地、に、靈、結、あ、つ、た、る、如、來、在、ま、は、濟、半、あり、當、國、を、如、來

堂、中、書、て、種、を、一、堂、の、下、に、種、を、と、は、ト、なる、是、奥、尾、種、紙、内、書、の、始、り、ま、う、今、の
色、く、其、名、の、中、と、書、入、は、り、存、在、種、紙、を、小、賣、て、汝、不、小、亭、主、幸、天、晴、上、佛、せ、り
是、より、奥、尾、中、場、種、と、い、ふ、中、今、は、俣、達、信、夫、の、友、那、其、外、近、郷、あ、く、と
種、を、販、求、中、を、あ、り、又、其、後、奥、尾、倉、津、大、洪水、は、く、い、り、の、泥、切、は、先、年、破、換
せ、総、國、結、城、の、川、筋、小、水、漲、り、出、は、し、又、方、不、切、と、く、其、川、筋、に、強、勁、い、ん、は、は
物、り、小、其、川、下、に、藤、人、二、人、通、り、り、り、は、強、勁、と、信、半、や、ら、ん、と、た、め、中、川、上、より
水、逆、走、大、蛇、の、起、り、切、が、お、く、勝、り、ある、あ、り、や、堂、見、る、小、一、面、海、の、て、く、小、る、は、お、向
とも、と、と、方、け、く、二、人、と、柳、の、本、に、攀、り、佛、神、小、形、聖、と、て、夏、の、心、地、を、種、紙、を
星、降、進、く、風、ぬ、あ、り、お、は、く、く、中、に、止、む、と、ま、ま、を、か、く、二、人、と、枝、小、を、ぐ、り、は、く、と
今、や、本、と、柳、小、押、流、れ、を、の、み、を、堂、け、り、を、や、せ、ん、と、荒、然、せ、り、二、日、斗、を
長、く、り、り、小、河、風、ぬ、も、小、止、さ、り、り、の、心、地、を、未、満、水、引、れ、が、物、方、を、

譽歌遊舞
 車梁東
 桑林杏雲
 初女工
 控景白成
 花笑日
 踏青步雪
 柳搖風
 盤盆綠戲
 今朝白
 祝簿燒桃
 昨夜紅
 不獨一家
 胡老暖
 我來遊
 擬貢王公



助舟まづれ命形ばはば飯きッ喰ひつりとも歳日の織とら思ん可伶は飯彼小
 多(ど)て死せだ眼えん半も不飯たりと終小金子空かふは彼そのたこ
 に眼び仍日ド本に宅王助多成増もさ所因縁あやあん今は死も
 眼か一神佛の加護あく二人が命助りたば形末長く悪も小せをやや
 眼びるかくて漸日め水も引く二人も不之儀の命助り得り所
 長どの門く食の大切たるて成たかかんが初冬一乳玉の時ふ菜漢をい
 何程の便成物くも幸老有向一強踏のそのと惣小民家小あ一入
 全報助室成棄ひ衣服をいれ雨さどあつたこい斗形一物ねを今
 去年の國意成思ひあ何り所幕食をとお海そふろふ登りた

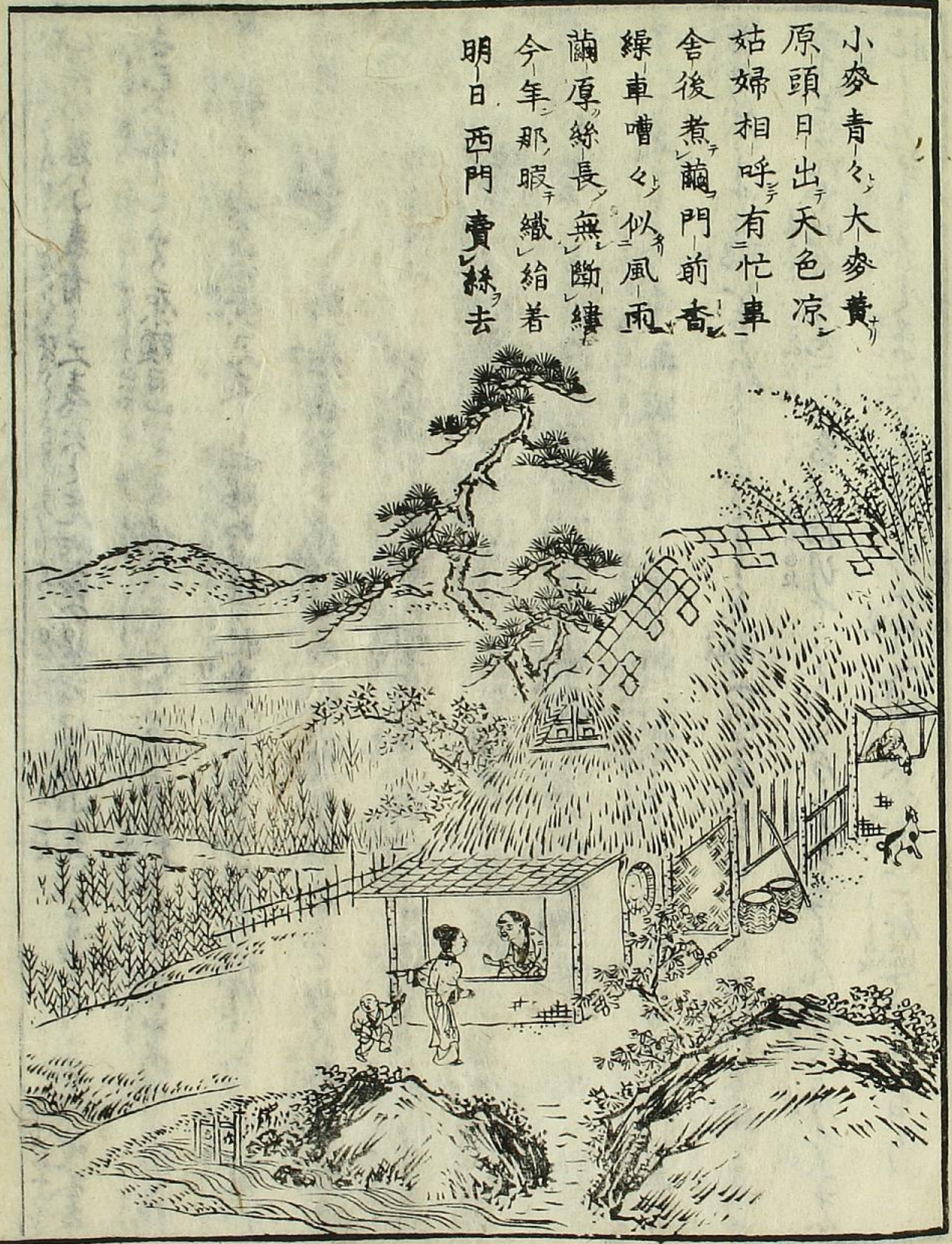
或人の台小

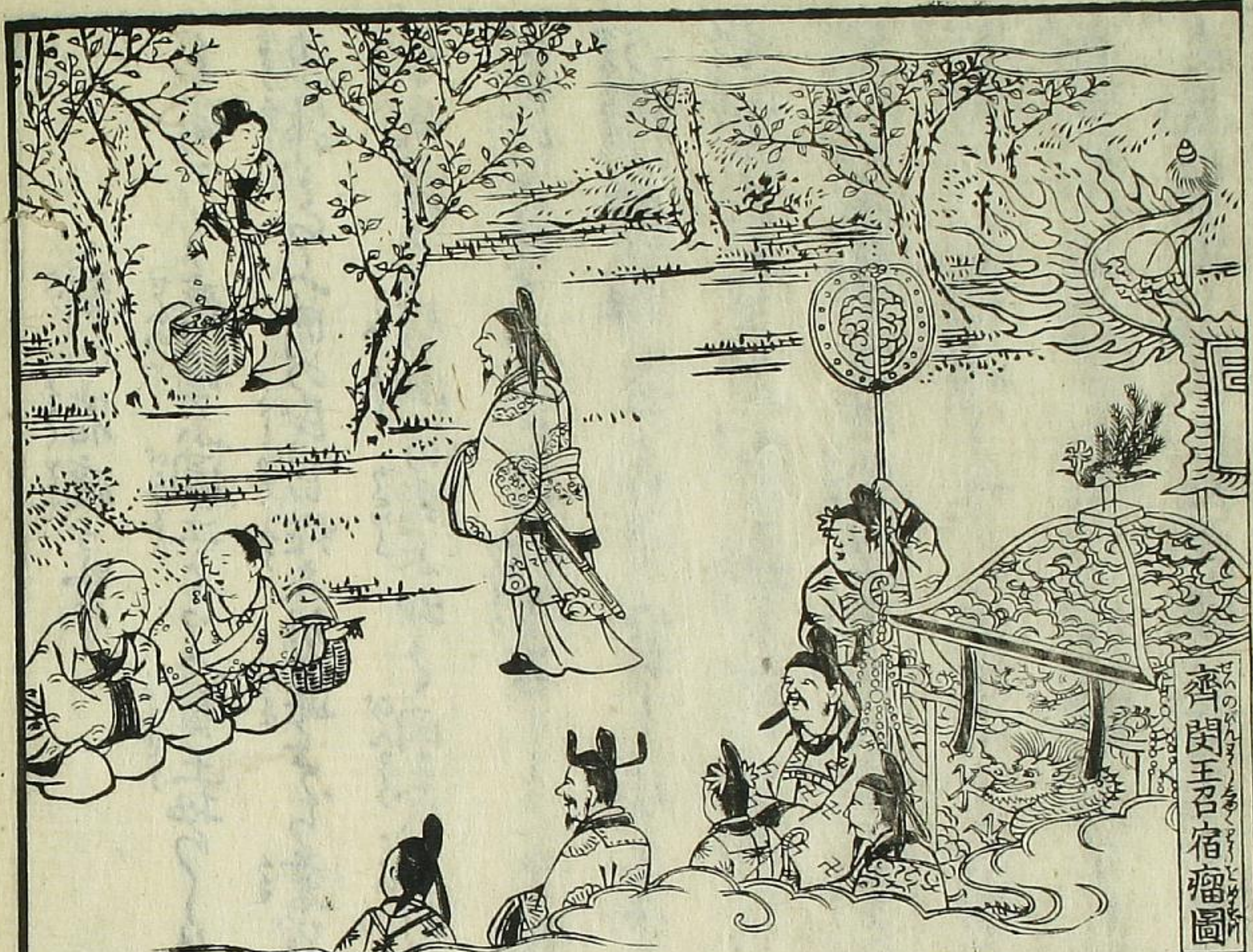
業平を飯喰ふくううかたけをこ

けつけつのる意いをう當あ秋あき燕えん舞まとてう常じょうのい秋あきのい燕えんをう舞まのあるる氣き色しき長なが果はみ
 板いた成なり迹あとをう画え梁りやうのい彩さい色しき打うちたとうるる梁りやうはく吳ご燕えんのい宮みや殿でん打うちたのい氣き文ぶん成
 のい其その東とうのい林りん苑えんをう此これの末すえのい素す松そう合が雲うんのい素す松そうのい意い芽め芽めままとうせせ後ごりりとう雲うんの
 おおととくく見み立たつつ又また地ち氣きのいぼぼつつてて雲うんととかかれれどど春はる暖ぬるのい氣きをう含くむむととううるる花はな動どう女にょ工
 ととのい素すもも芽めとと若わけけはは春はる香かとと僅わずかきき撫な果はととのい素す糸いとととををととううるるととうう魚い成なり花はな笑わら
 日ひとと花はなのいややここ極ごくびびととううのい笑わら指さ小せうささのい踏ふ青せい糸いと柳りゆう搖ゆ風ふうととううのい春はる野の青せい
 ととままるる所ところととああむむ波なみのい柳りゆうのい風ふう小せう揺ゆととううととううはは白しろいい春はるのい長なが果はままるる小せう素すととうう女
 のい藤ふじのい枝えだ迹あとをう緑ろく糸いと糸いと今いま朝あさ白しろととうう既すで小せう蚕さのい功こうをう終はるる今いま初はつ白しろ糸
 ややななりり宗そう廟ぼう小せう秋あきむむ板いたふふりり一いつ視し薄はく地ち挑てう挑てう夜や紅こうととうう薄はくととうう蚕さのい道みちをう
 飛と來きのい知ちととうう又また前まへふふままととうう秋あきのいととうう地ちとと挑てう糸いと蚕さととうう一いつ季きととうう不ふ獨どく一いつ家か相
 老らう版ばん秋あき來き還へん擬ぎ貢きん王わうととうう獨どく子こ衣いのい老らう人にんのいたたりり斗と小せうああらら貢きんのいたたりりふふととうう

美段下十一

小麥青々大麥黃
 原頭日出天色涼
 姑婦相呼有忙車
 舍後煮繭門前香
 線車嘈々似風雨
 繭厚絲長無斷續
 今年那暇織給着
 明日西門賣絲去

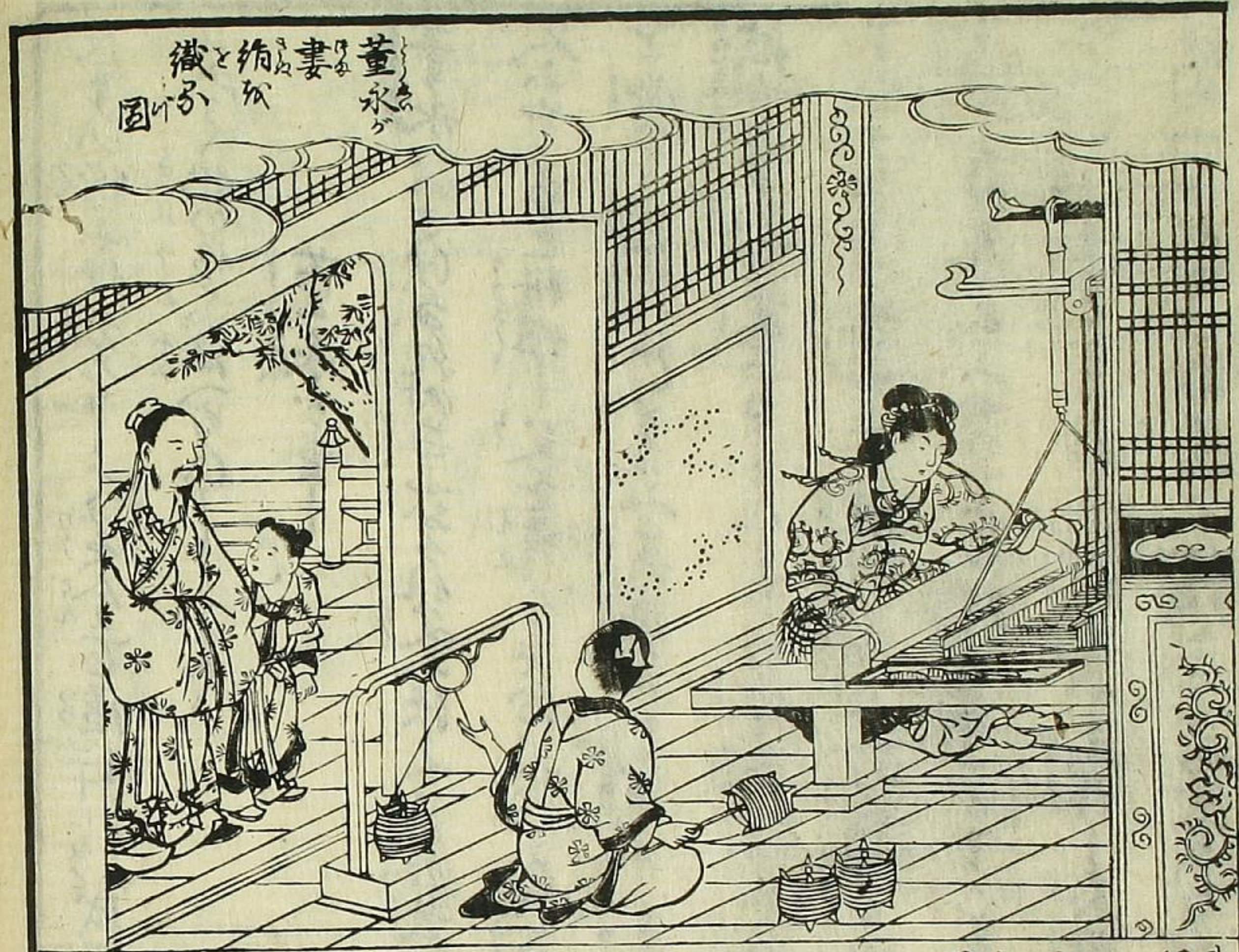




昔中我父母より父一身体
 膚にわしと疵付に我夜を
 生れはれたるを那これ疵と
 せん公の様を我に配りくおり
 及れと言はれも関王深感し
 賢女なりとて後車に命
 是は帰らんとのゆふ時不宿
 中我父母家小いまま父母を
 命とてうけざりて君不宿
 傳はるは奇女なり大王不宿
 用ひ給らんとの関王大不宿

たまひ終小使若をりて黄金百疋
 小へく妃の修小使のひりりや
 董永が半

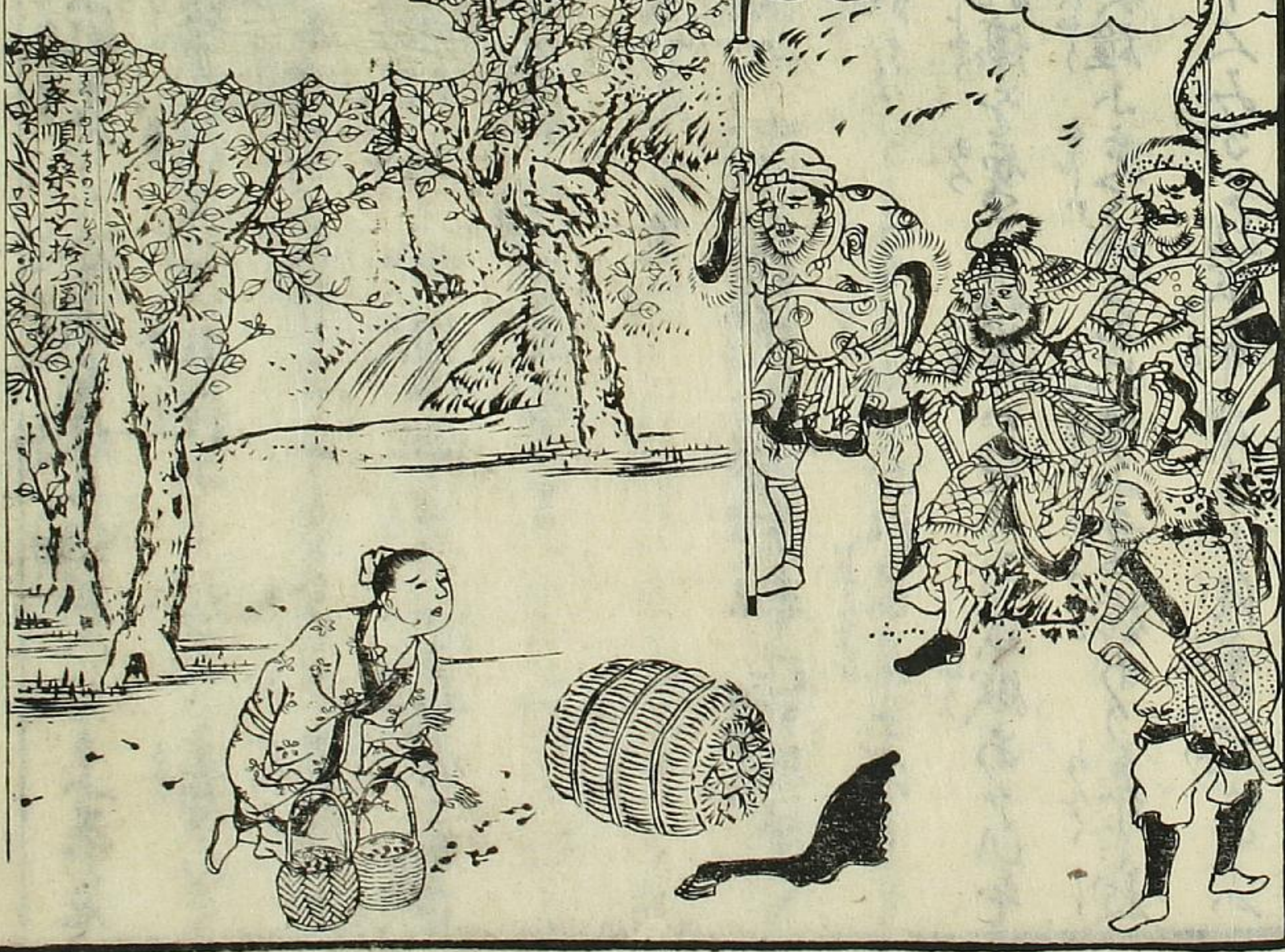
董永いひけるは時母おれ父おれ今
 人小やりの耕作父を育むる父死
 と賣て葬礼成いするみ其後父を
 彼女董永が妻ふるんとの董永が
 ぎんざらりてなきて我身と賣父の
 夫婦小形んとり女のふれ我能
 つふ董永祥きるとあり終小夫婦
 彼女一月の中小のりの絹とくた



董永が債とあら
 けひられたま主人たれ不替るき
 且よ海をびく董永夫婦小
 いふ成法ありぬ董永の旧
 里小帰らんとして門を出る
 時婦人告くつ我まとい天の
 織女たり海が若かり源と感
 天より我を洗うる海を
 をまけしむといひ早て忽
 天小あがり海を若かり源の
 けく有難きをまめし

蔡順の事

蔡順は海南人なり母小幸と
 孝のゆへに其の天下を小礼と
 赤眉の賊とくは方小横の
 怨まに財産を奪ひ万民
 とたやましはあまうり國中
 飢饉小ひびる蔡順は日く山野小
 知く菜と拾ひ擇りて患難乃
 中小日と送るる小其のゆいん
 ありある時菜の實を拾ひ擇り居
 たり小賊黨来り海其實を



何のた先不推多るや也乃れを茶順意とく今國家亂に飢饉小わらぶ某老
 たる母とそり熟する実の母小進先熟せざる我釋ふく侍之と云はれ
 賊首たれ不感し年を依牛の足をう成あへ向りらると我茶順が徳り
 しみもそりなりぬる茶順の老も其殊に感し惻隱の心を生じ是哉性たる
 かりとい此をいふを併なぐ茶順が徳儀小化せるるべし

中華涿縣小素の名本茶順一車

中華涿縣とる所小英雄あり漢中王劉勝の後胤景帝此玄孫に
 姓の劉名と備字の玄德とりの幼なりしとき父ふそふれ家甚まぐりて
 母小は久く老あり人せまふ礼儀を重し以常のひり成獄ありひを
 履とつりて産業とく好んぐ英雄小するは家此傳小素標あり年々枝
 葉繁茂して軽車蓋のどく一人みかされ成奇なりとい小素定とる小



季定 桑樹と 相する園

多のは素の本城身と云素の
 日本の一なりは標かく業也
 とはたなりかすは天下とある
 登れ貴人出づる揚相なりや
 といが果して後玄德桃林
 小龍と関羽張飛を日とく義
 城法び美巾の賊を滅し孔明と
 ゆく軍帥とて天下と二分は
 吳魏蜀相とるんぐ威名を揮
 率いりて三國志小身と
 くれをさく小素也

ところろ 指の那那とらふ
 所小羅敷とらふ 美女あり
 花の初んを色雲れす由
 ずと嫁始とらふとほひ
 けくぬくこりあつ時
 川のやそりけく素と
 そり居る小羅敷の人
 羅敷が義色小
 見それ恍惚と
 て非と死一街小
 踏踏一乃向
 おふ 趙王将小
 出のい一小車の
 肉より羅敷と
 足の内文申にへく
 妃ふゆんとるこれ
 以とととと

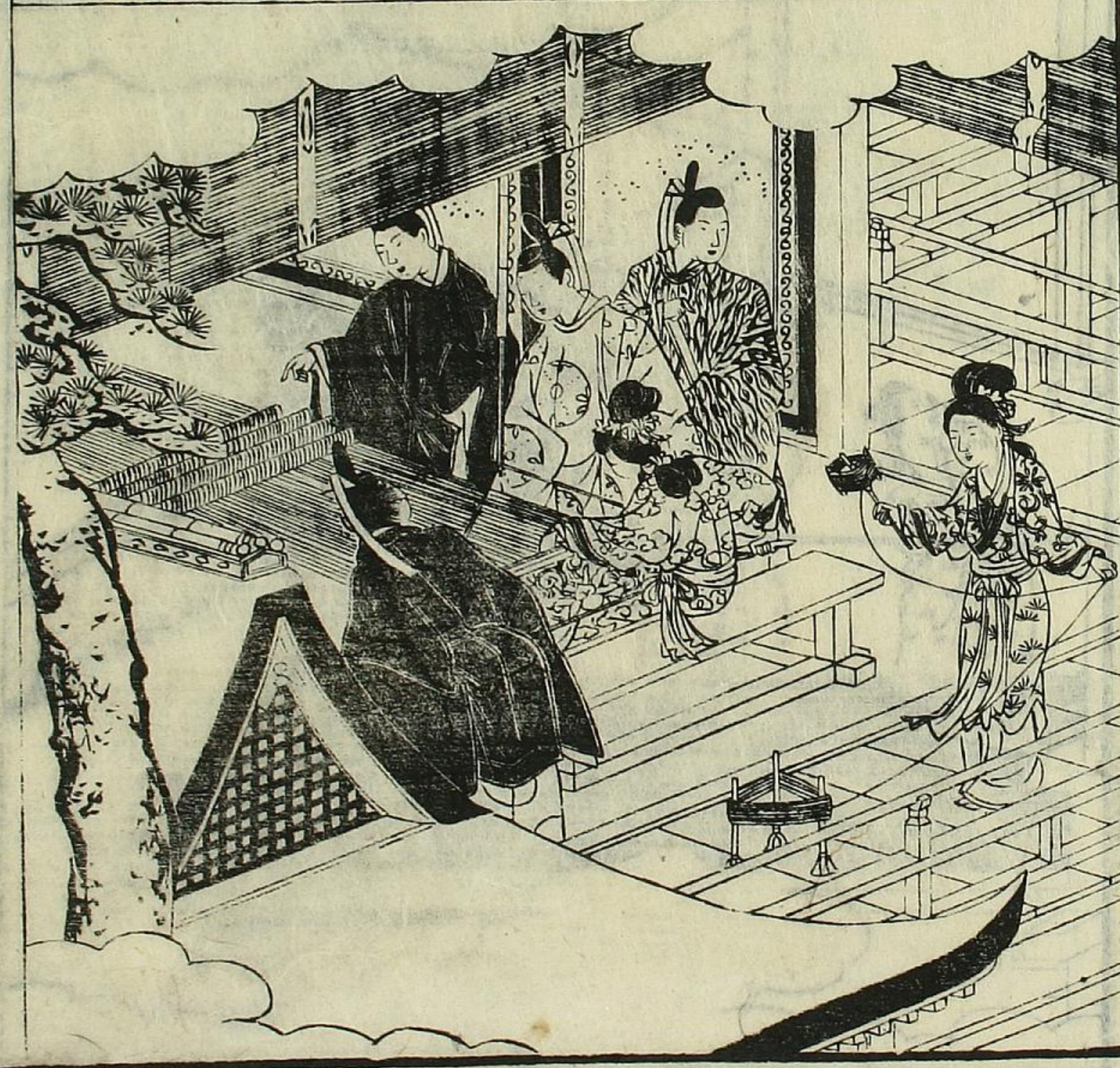


かく様一と
 義を守り
 とらり

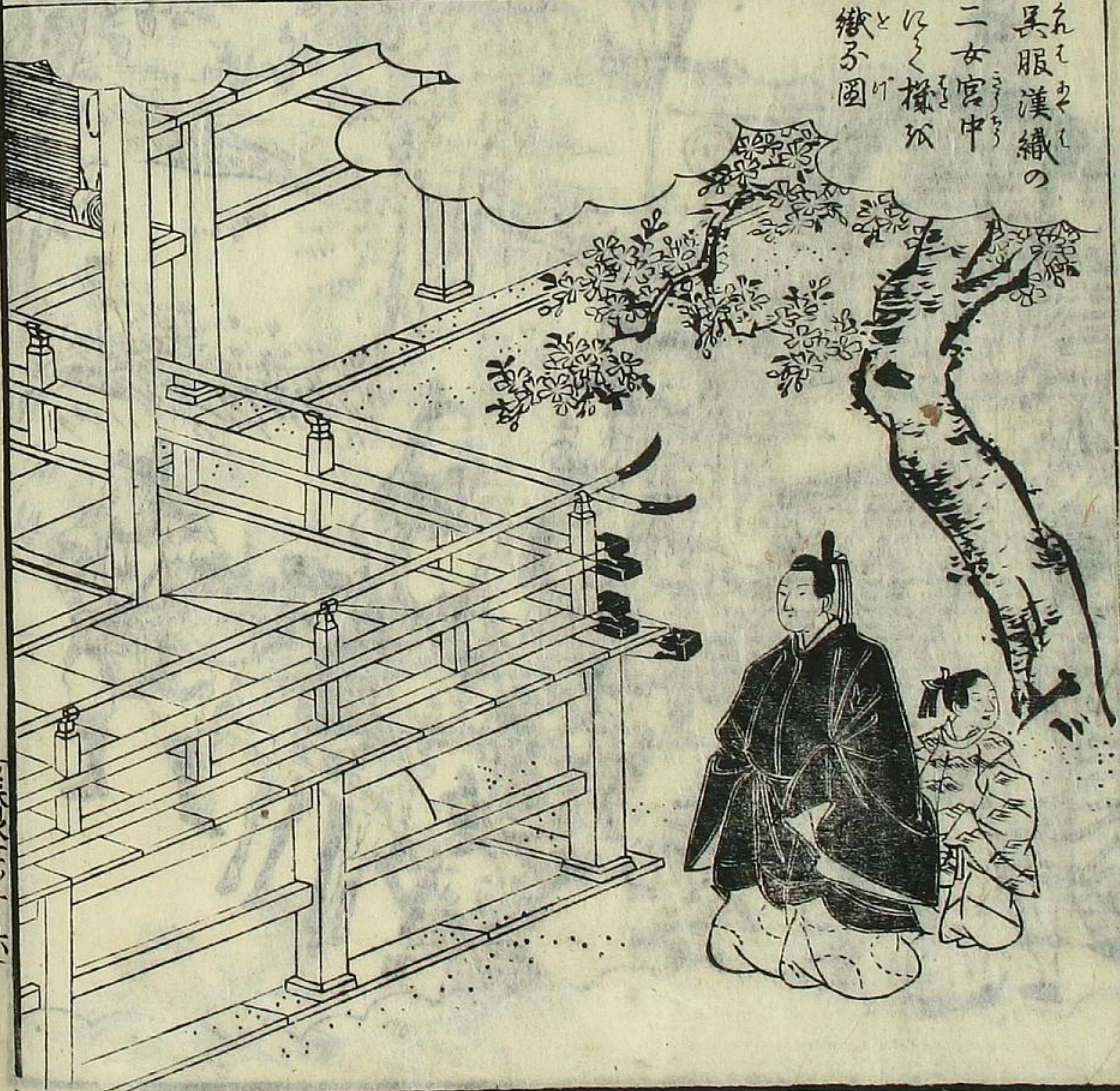
羅敷善株桑
 採桑城南隅
 青絲為籠繩
 桂枝為籠鉤



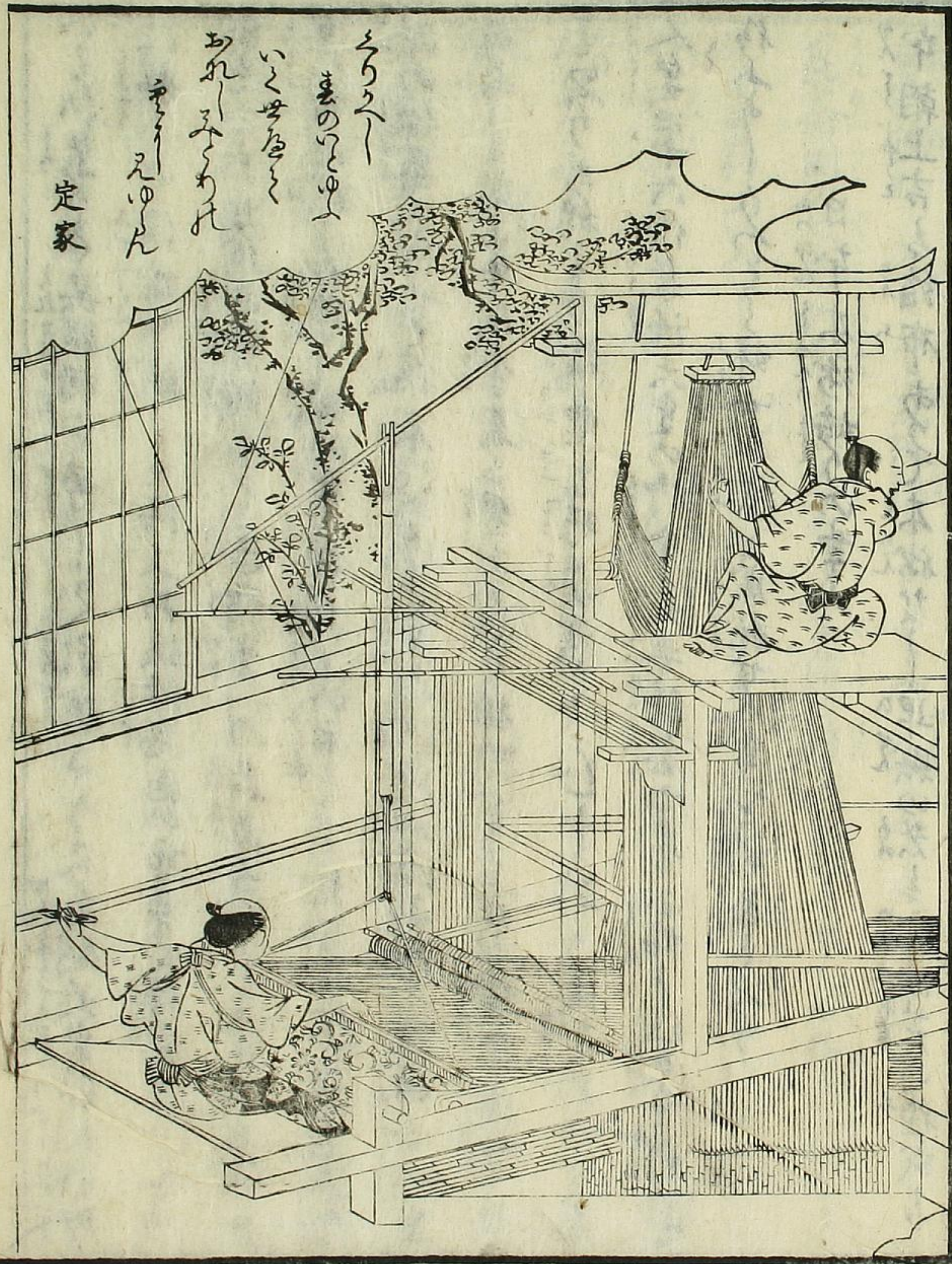
倉れ半成宛賢といふも
 け謂はるるりと天照林
 の清代ふりり稚日女を
 操物成目りぬ程善く
 人の代とらりてい意神天皇
 此沙宇小百濟國より縮
 縫姫真毛洋といふ若日本
 小渡る又其後吳國より吳
 服綾織の女工ををるこれ
 くり本形織物の道大
 度是り今括別池田ふ



衣服始り此半
 上古系綿なれ以前
 衣服といふものなく或ち
 木の糸の類を首首とあり
 てけり身小纏ひ糸
 進をなく穴を堀く位
 乃々小恙といふ出来て
 人を刺き是と尋ねく
 穴のほ成男く深居る
 今れ世小半成宛
 して是をうくといひ秘ま



呉服漢織の
 二女宮中
 似く操成
 獄子園



高機之圖



いさひありて呉服祠を号し之を然し又元明天皇和魂の中に
に勅して綾織と織しぬゆ其後洛陽西の市多く絹帛多しと
しき今もな成西陣織と云ふ京師才一乃名存たりと云うの機を
黄帝代より始り繡の事をも文王の后も先たまふと云う或書
漢の張騫と云ふを樞本にのりて天乃河北水源小刻しに神女織と
織居る所小半成糸ある男ありて相かてふ是常半織女あり
と云りお終より漢帝乞巧奠成と云ふ中より又中於小く
人皇は十六代孝謙天皇の御宇天平勝宝七年小始り糸を乃を
終りしゆゆ婦女此業を成就せん事を祈ふと云り

日本本給始りの事

本朝上古も絹布ありて本給なり一卑賤の者も帝小若の植成る

萱の穂びと入るを氣成防ぎとせり人皇は十代桓武天皇の御宇に
崑崙國の人卷河内小漂若をいへ本給の種をのりてり一瓜清く結玉は植
さゆ終りしゆゆ婦女此業を始りし又文祿年中に吳玉より種を始り
今天下小あちひく弘聖人民の助とる今本給と云ふものいひ給わ織
布ありてこれを本給布といふと異語なるを文字音もくし耐を曰ト本
給ありて給りしれを葉の耐を和刻して本給と云ふ又唐子もく打やんぐ
也唐綿とも打綿ともいふ又本給の服を布子と云ふも古代の名と云うるもの
かり又衣服と綿と云ふは漢にも小其初りしゆゆと云ひ一奥州信夫の里
小玉出等実と云ふ衣の面も志はぶ葉のさゆる級ありしと猶も小給は布
と云ひしと云り

古今

みちねの志はぶもちゆり雅也ふと云ふれをあり一我も終りしゆゆ

又據列志云一曰深也市成からん深と云

何れより正なる志うふそめるあるもふ人を志しやそのひるる

漢張湛民小饑業成勸しる事

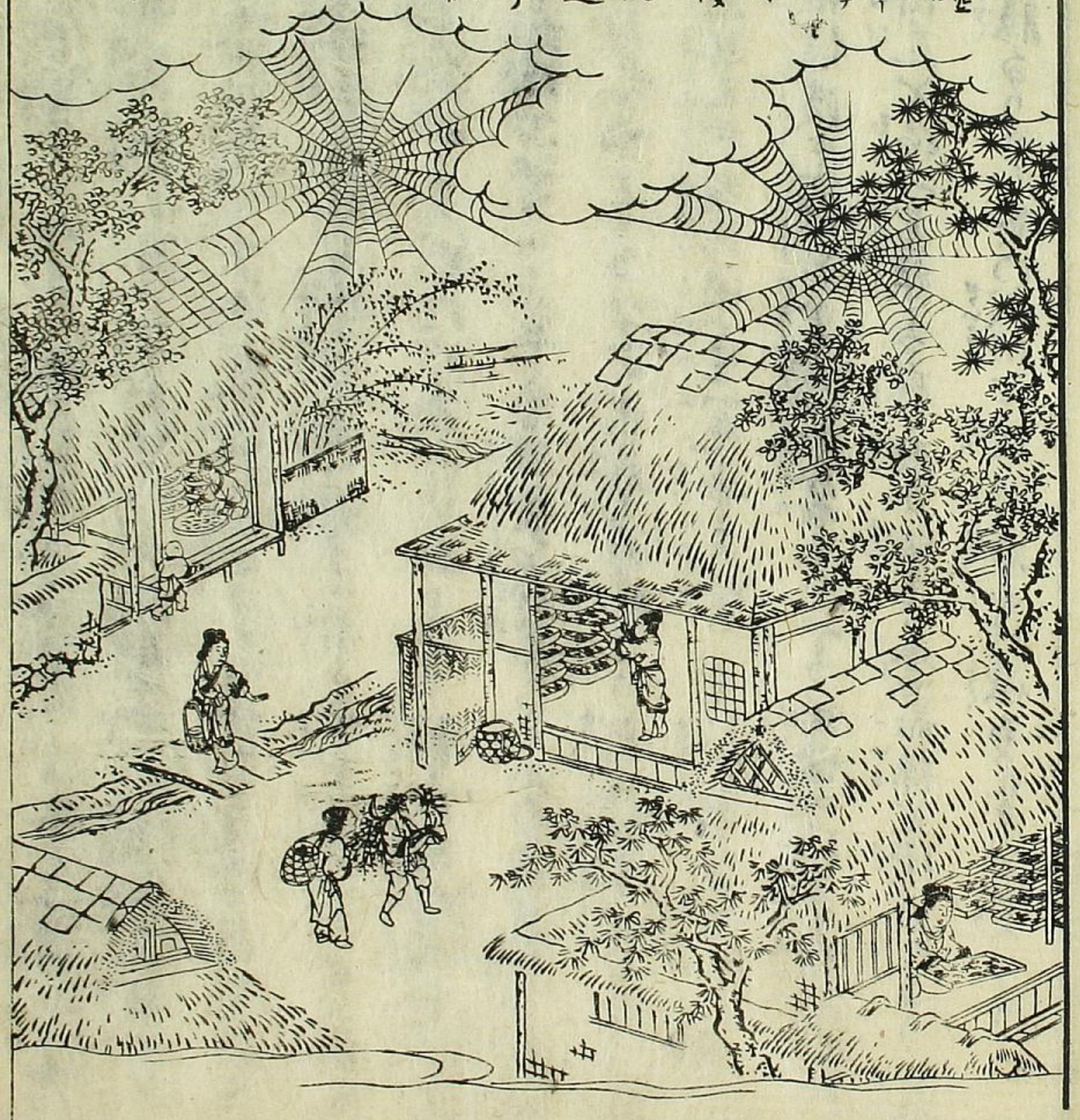
後漢の張湛云一人と生僕礼と好しけしをぬく勸止と法友と云
く能強瓜形と云ふはく民小饑ふすわりの漁陽郡の太守と云
専農業と勸め又採桑の事をせしめ民と梅育しんれを民
その似不注一國豊小樂免りよりく致と作

桑無附枝麥秀兩歧張君為政樂不可支

桑に物一やとんやどり本もなるとり兩岐と云二まこ麦の秀と
二つの極成知はと皆考作の事と云張君政を形しめ富一國年ありて
民の樂と云はべりばと云り

養口資身親
以桑終成王
道澤流長吐
絲不羨蜘蛛
巧飼葉頻催
織女忙三起
三眠時化運
一生一死命
天常待看獻
繭盈絲後
先與母皇
織袞裳

謝疊山



此詩を蠶の功を賞せし詩有り養は資身頼以素と云蚕と諸虫と遠く
 魚の物と喰ひ素一程をりて且けり云終成王道澤流長と云夜食也
 生苔の急勢澤流ハ王化なり蚕を衣服の根中なれを終小王道と成ると云
 吐絲不盡蜘蛛巧と云蜘蛛を楯上小絲を張く自ら食を食ふ其事ハ巧
 と云ども其志小人の物まひなれば終小たればなり網兼頻催織女忙と云
 蚕の絲と吐と蜘蛛小蜘蛛と云ども我食を食ふ小あはれ其功を他小絶
 其神若小よりてや一なりふ是君子の福有り輕愷織女忙其功を他
 小及はをり三起三眠時化運一生一死命天常と云勅止ると天命小俾に
 待看献繭盆繰後先與吾皇織衣裳と云る蜘蛛の巧と云はれと云
 白小對して青尾と云はる繭と云廊廟不献ざる祭器絲と云る具有り衣
 裳と天子此服有り是蚕の成功と云く君子此徳あり幸と云せり

物色全無 飢食加豈知人世有榮華 一年々道我蠶
 辛苦底事 渾身著行麻

此詩を農家の勞と憐しく他と云詩なり物色の女の粧いと云全飢食の
 かふる行と云ふ農家の女と云はれを白粉の粧いと云くしてまうと云
 飢はれと云容小似と云豈知人世有榮華と云ふかふる行と云ふ人の若と
 何と云て世間の榮華あると云と云んやと云る遠國名境の農民なりと云
 榮華の去地の小交らと云世間の榮華と云と云なり年々道我蚕辛苦
 底事渾身著行麻と云農民みづり歌トては作たり年々蚕と云
 毎小我を教もゆと云小度やと云辛苦と云絲をそのながと云之川と
 我身小行麻と云麻の布と身小まると云生涯榮華此樂と云と云
 と云あはれ佛と云小日と送ふと云と云は詩を表ふる辛苦と云く情を

迷く裏小と天命小處をるまをゆくり

昔年愛笑蠶家婦 今日辛勤自養蠶 仍道不愁羅

與綺女郎初解織桑籃

は詩を蚕業の全体とす昔年愛笑蠶家婦とす蚕家の少婦平
日無為の時とす昔年いじりの事なれども年久しれ以前の半あはる
所一只蚕蜘蛛のおおゆるるの時にんて一を笑あはれた女の意思より今
日辛勤自若蚕とい文のとりゆく蚕の時にん中なり平生を何の若も
形くやそれ身なれども今昔蚕中なれを辛勤よりせなり仍道不
愁羅と綺仍とす上の句とくあはるる義なりわく苦勞して蚕をまら
むを我羅綺小車い欠はると羅はすりの綺を後のたがひなり女郎初
解織桑籃とい蚕業成就して道楽花がどたどとげくと解とす解は花

蚕の徳小て福者

なり一幸

上は確氷形小何糸と

るん人知小

又小離母小はして若

仍かり元より家笑

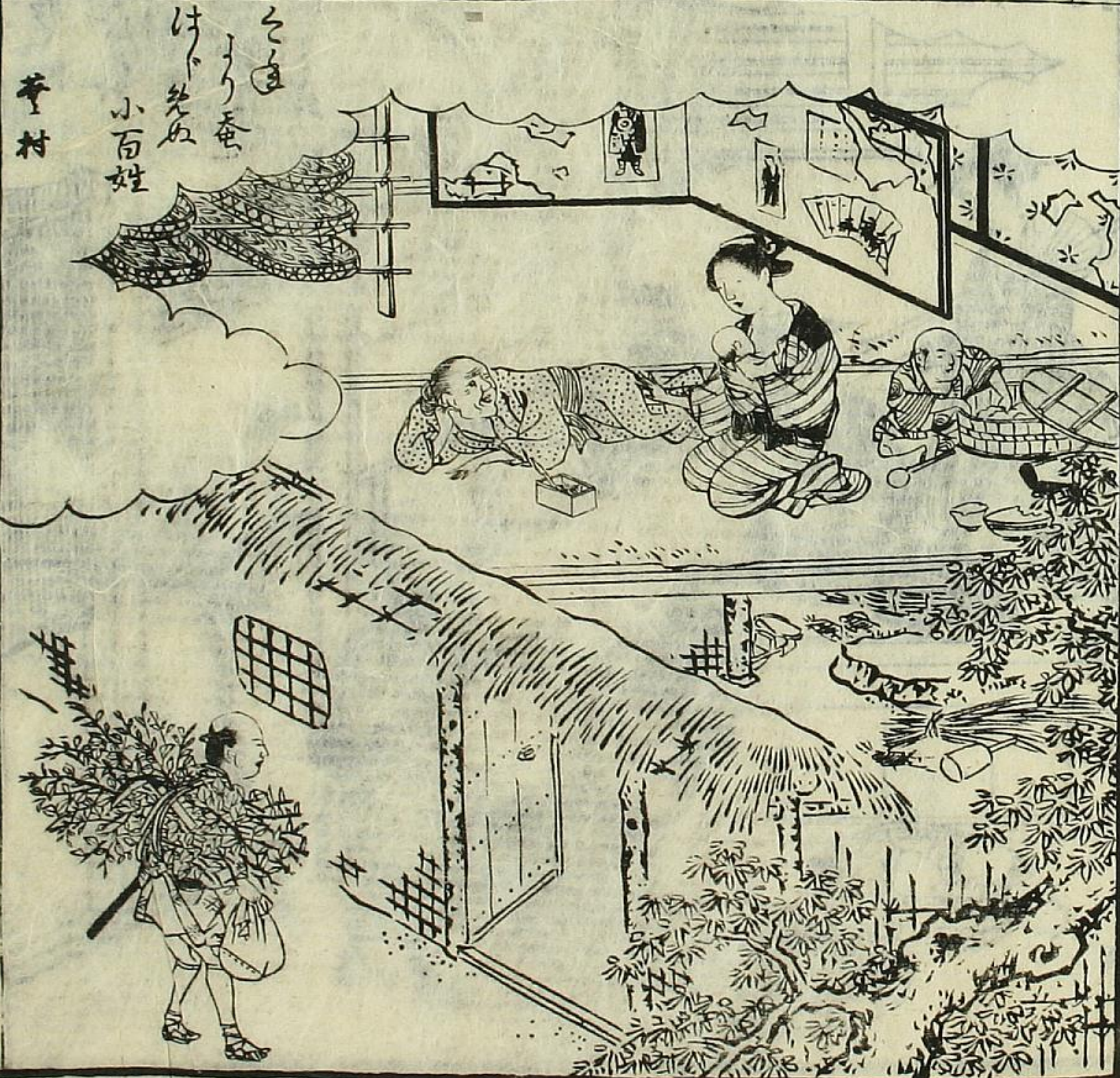
しは世胡名ありて

立り子妻子とも肌を

小若しと目とあはるる

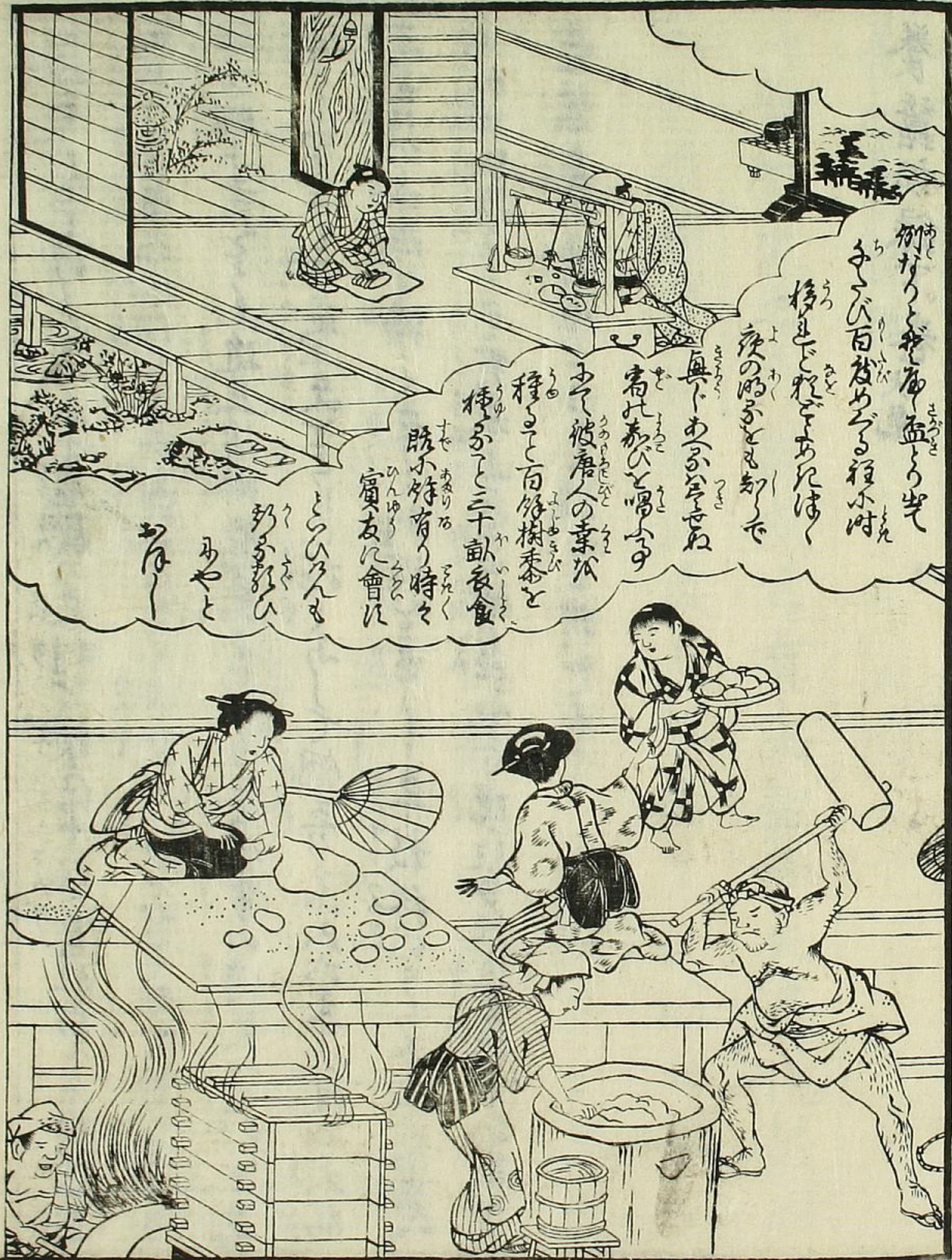
仍くは母とあはるる

手便もはれ果は末



養蠶

小百姓



例はつと和唐 益のり先
 ちこひ百枝あづる程小付
 移して程をあたはけ
 疾の病をとも知りて
 無くあふふ言
 高比あびと唱ふる
 ち彼唐人の葉は
 種こそ百枝樹香と
 棒系こそ二十畝食
 膳不味育の時々
 質友に會は
 とらひんも
 ちよひ
 ちよと
 ちよ



糸後ひらり玉書巻はと形く続
 めるとかえりてきのする事ふんこれい
 初花白ふはより素操るまふれ日
 孤志と郭公鳴や夕月の籠も睡を
 悪ひでと世が起伏は心をしわらさ
 かつたか身の内いふふたが
 ちれ若と女とい中夜さる
 く摺の髪も楚を末の
 換身まきまき誰のいもわれ
 め小今日の実家夜せん
 衣服潤なかと移ひみあふ
 ちれ踏ひるまききりあ
 に垂垂るく小候さくさく
 指出る姑の志しり姿とを
 俄小目さむ心流るんや今今日
 まづ是をりて美
 幸いあらんは

あつらんやけりくろふ農民の大利を得ん半蚕業に志くものなり
何卒蚕の秘術を究へ母妻子とも安穩小業をせむや中ひまより
終の畑小業をうえ近在郷の功者ふたり蚕畑方の得失評判と見
聞かとも日教工まごころに極くあて候ふ乃ふ六年の間小天晴
害育の子孫と得く年々利注とまよ一奉教終のうらふ大糸業へ
山林田畑影一々実求上るる傍色よく隠れられ家々よかたり
是若貞の徳ありりくねせり所なり

養蠶秘録下巻 大尾

養蠶秘録跋

予觀歴史之所載或君有爽德而失其道敷同
日奏罔功官不舉其職吏不奉其法因名位而
殘害其下則無為民之父母之實而民受其禍
害何但桀紂之民而已哉勞力而奉之而如是
為之下者不亦難乎予常歎曰我獨芒而人亦
有不芒者乎頃予觀此書喟然歎曰勉矣哉事
也可謂盡為下之道矣靖共而受功如是何但
堯舜之君而已哉勞力奉事如是而為之上者

不亦易乎記曰誠者天之道也自誠明謂之性
夫人隨其成心而師之誰獨無師乎心誠求之
雖不中不遠夫一氣所鼓塊然為形五行為質
物受其性生其自然也人惟萬物之靈聰明作
元后之民之父母也聖王臨於天下也事其自
然也其辨方正位體國經野設官頒職隨其自
然也其俞允官人魏之文章煥乎成功隨其自
然也夫土生物人資物而為業以供事聖王
量能授事四民陳力受事朝無廢官野無游民

故曰上之治下也事也能有所藝者技也技兼
於事之兼於義之兼於德之兼於道之兼於天
夫物固有形之固有名之當謂之聖人故知不
言無為之事然後知道之紀殊形異勢不與萬
物異理可以為天下始聖王居民材必因天地
寒煖燥濕廣谷大川異制民生其間者異俗剝
柔輕重遲速異齊五味異和器械異制衣異宜
修其教不易其俗齊其政不易其宜五方之民
皆有性不推移也五方之民皆有安居和味宜

服利用備器五方之民言語不通嗜欲不同達其志通其欲食節事時民咸安其居樂事勸功尊君親上其理自然也予因述者之請而書之具瞻之君子讀此書而顧吾言不啻觀桑養蚕之事矣

享和二年壬戌冬但馬國出石隱士關口源漁識



跋

先王之政域民築城郭以居之制廬井以均之而無恒產因無恒心故制民之產楙勸課農桑使仰足以事父母俯足以畜妻子是以民陳力受職男務農殖女脩蠶職若山林藪澤原陵溇鹵之地各以肥磽多少為差賦入貢糝然後邑亡教民地亡曠土蓋方今

昭代之化百姓繁庶衣食豐衍老者衣帛
食肉不饑不寒安衽席之上矣上垣生嘗
使家人孜孜於蠶繅之業且審詳於飼養
之術是雖婦女之生產亦王政之急務也
乃鏤于版夫世養蠶家取飼養之法於此
焉其必有益乎享和二壬戌初春

加藤爲貞撰



享和三年癸亥正月新刻

作者

但馬國養父郡藏垣村

上垣伊兵衛守國

平安画工

法橋西村中和

速水春曉齋

同彫工

樋口源兵衛

江戸書林

日本橋通壹町目

須原屋茂兵衛

日本橋通三町目

須原屋平助

心齋橋筋順慶町

柏原屋清右衛門

大阪書林

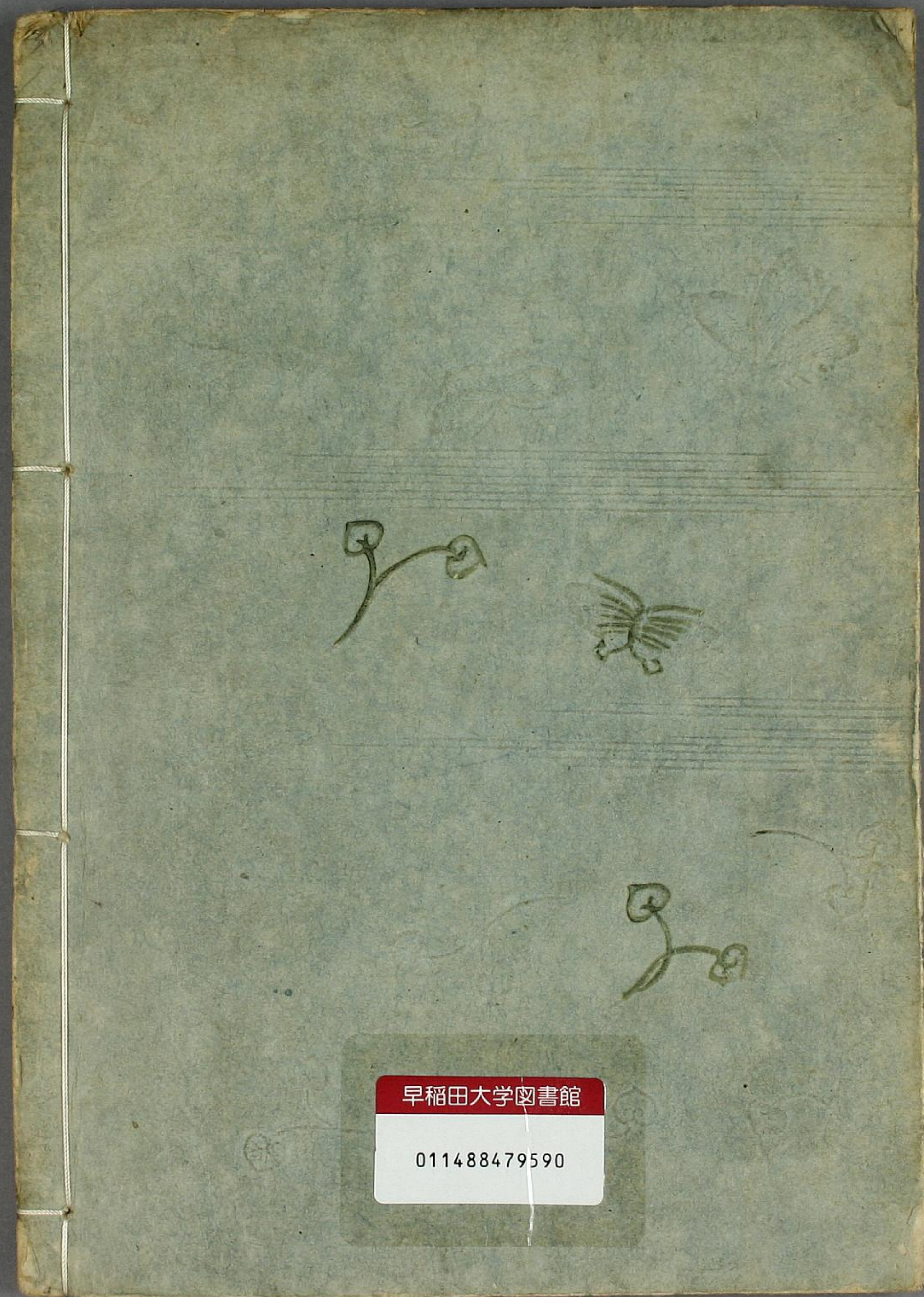
寺町通松原上町

菊屋七郎兵衛

京都書林

富小路通三條下町

須原屋平左衛門



早稲田大学図書館

011488479590